

《担当者名》教授 / 北市 伸義 nobukita@

【概要】

ヒトは外界からの情報の約80%を視覚情報として得ており、眼は非常に重要な器官である。歯科領域との関連が深い眼疾患も多い。視覚機能と主要な眼疾患の病態を理解する。

【学修目標】

視覚器の構造と機能を理解する。
主要眼疾患の病態を理解する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	眼科総論 外眼部、前眼部疾患	眼球とその付属器の構造と機能、検査法を理解する。眼瞼、結膜、強膜、角膜疾患の病態及び治療について理解する。	北市 伸義
2	白内障、緑内障	白内障、緑内障の病態及び治療について理解する。	北市 伸義
3	全身疾患と眼	糖尿病、高血圧など全身疾患に関連する眼病変について理解する。	北市 伸義
4	網膜、ぶどう膜炎疾患	網膜疾患、ぶどう膜炎疾患などの病態及び治療について理解する。	北市 伸義

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験（100%）

【参考書】

「標準眼科学」 大野 重昭・木下 茂 編、医学書院

【学修の準備】

予習として、眼球の基本構造、基本的な用語の意味を理解しておく。（30分）
復習として、講義中疑問だった用語などをまとめておく。（30分）

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP1. 人々のライフステージに応じた疾患の予防、診断および治療を実践するために基本的な医学、歯科医学、福祉の知識および歯科保健と歯科医療の技術を習得するために必要な知識を眼科学の観点から修得する（専門的実践能力）。
DP2. 「患者中心の医療」を提供するために必要な高い倫理観、他者を思いやる豊かな人間性および優れたコミュニケーション能力を眼科学の観点から身につける（プロフェッショナリズムとコミュニケーション能力）。
DP3. 疾患の予防、診断および治療の新たなニーズに対応できるよう生涯にわたって自己研鑽し、継続して自己の専門領域を発展させる能力を眼科学の観点から身につける（自己研鑽力）。
DP4. 多職種（保健・医療・福祉）と連携・協力しながら歯科医師の専門性を発揮し、患者中心の安全な医療を実践するために必要な知識を眼科学の観点から修得する（多職種が連携するチーム医療）。
DP5. 歯科医療の専門家として、地域的および国際的な視野で活躍できる能力を身につけるために必要な知識を眼科学の観点から修得する（社会的貢献）。

【実務経験】

北市 伸義（医師）

【実務経験を活かした教育内容】

眼科医師としての実務経験を活かした講義をすることで、歯科医療の現場で役立つ知識、技術、態度の習得に寄与する教育を実践している。